



オーストラリアを訪問したメンバー

- 団長 赤松 達夫 (稲美町長)
- 副団長 中村 美子 (稲美町国際交流協会理事)
- 生徒指導 前田 和則 (稲美北中学校教頭)
- 事務局長 前川 正明 (経営政策部長)
- 稲美北中学校3年 小出水 悠香
- 山本 るみ
- 大橋 愛香
- 稲美北中学校3年 今釜 聡美
- 水田 紉菜
- 坂元 由梨
- 杉本 衣里
- 前田 亜美



南半球のまち「スワン市」との友好

派遣団 団長 赤松 達夫

稲美町では、昨年度から次世代を担う青少年が、外国の青少年たちとのホームステイや交流などを通じて相互の理解を深め、自分たちの地域の特性を再認識するとともに、国際社会に対応できる人材育成を目的として、中学生海外派遣事業を実施しています。

今年度の派遣団につきましても、スワン市の皆様に心温まる歓迎のもとで受け入れていただきました。こうした環境のもとで、中学生たちは、行く先々で豊かな経験をし、多くのことを学んだことと存じます。

このような地道な交流を積み重ね、スワン市との友好関係の絆をさらに築いていくことを確認してまいりました。

最後になりましたが、この事業の発展と若者たちの成長のためにも、住民の皆さんの国際理解とご協力を賜りますようお願いし、報告いたします。



4月に来町されたガバナー・スターリン高校のクレイトン校長と再会

中学生海外派遣事業 8日間の軌跡

日	月日(曜)	現地時刻	日程(泊)
1	8月17日(水)	8:00 12:00 18:50 23:50	役場出発 関空から空路シンガポールへ シンガポールから空路パースへ パース到着(パース市内のホテルへ)
2	8月18日(木)	9:15 12:30	兵庫文化交流センター 小川所長表敬訪問 ファーガソンファームでファームステイ
3	8月19日(金)	12:30 16:00 17:00	ファーガソンファームからスワン市へ スワン市長表敬訪問 ホストファミリーと対面
4	8月20日(土)	終日	ホストファミリーと過ごす
5	8月21日(日)	終日	ホストファミリーと過ごす
6	8月22日(月)	8:30 18:00	ガバナー・スターリン高校 体験入学 スワン市主催歓迎レセプション・夕食会
7	8月23日(火)	9:00 9:30 16:00	ホストファミリーとお別れ パース市内見学 パースから空路シンガポールへ
8	8月24日(水)	1:10 8:35 11:30	シンガポールから空路関空へ 関空到着 稲美町到着

人のあたたかさ

今釜 聡美

ファームは、日本では考えられないくらいに広いところで、たくさんの自然・動物・そして人のやさしさ・あたたかさを感じることができました。トラクターに乗って野性のカンガルーを見に行ったり、みんなで看板を立てに行ったりと、とても楽しい1泊2日で、別れがとても辛かったです。

ホストファミリーとの対面では、ファームで多くの楽しい経験ができたからか不安はなく、「英語は苦手だけど頑張って気持ちを伝えよう!」と前向きにいろいろなことを考えていました。

派遣事業に参加することで、普段経験できないことがたくさん体験でき、人の優しさにもふれることができました。もっと英語を勉強して、自分の考え、思いが伝えられるようになり、もう一度オーストラリアを訪れたいと思いました。

初海外 オーストラリアで

水田 紉菜

オーストラリアと日本との一番の違いは、人と人との接し方だと思います。日本では、わからないことを恥ずかしくてなかなか聞けないことが多いです。でも、オーストラリアに行ってみて、名前のわからないものがあれば「What is this?」などと聞けました。すると、そのことをとても詳しく、わかりやすく教えてくれました。答えてもらって私は、自分の英語が通じた嬉しさと、わかりやすく教えてくれた感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。

オーストラリアと日本の文化の違いや共通点を、肌で感じる事ができ、英語だけの生活の中で自分の英語でコミュニケーションをとり、大自然の中で動物とふれあうなど、本当に貴重な体験ができました。この良い体験をこれからの私の人生の中で、何かの形で生かしたいと思っています。

オーストラリアの8日間

小出水 悠香

ファーガソンファームへ向かうバスは、時速100km。まわりは草原で牛が寝ているなど、日本では考えられないことばかり。ファームも見渡す限り緑が多く、たくさんの自然や動物とふれあうことができました。

私のホストの家はとても広く、カンガルー、馬、羊、鳥、犬、猫とたくさんの動物がいました。また、水族館やビーチなど、いろいろなところへも連れて行ってもらいました。

オーストラリアでの8日間は、本当に短いものでした。あまり英語が話せなかった私だけ、相手の話を頑張って聞くことで、やっとわかってきたと思えば帰らないといけなくて、とても悲しかったです。やっぱり、行かないとわからないことのほうが多く、感じることもたくさんありました。そして、もう一度オーストラリアへ行き、BrianとTanyaともっとたくさん話をしたいです。

初めの一步

山本 るみ

オーストラリアでの8日間は、今までの自分にはないものをたくさん身につけることができる本当に良い機会でした。特に言葉の面では、私は行く前は英語ができるの心配でした。でも、授業で習う英語とは違い、英語は私とオーストラリアの人たちとのつながりを作ってくれた大切なものとなりました。

そして、国が違い、言葉が違うという環境の中で、英語は私に自分からしゃべりかける勇気を与えてくれた、大きな存在となりました。普段、少ししか口にしていない英語が、私のできないという気持ちを破り、できるという自信に変えてくれました。

稲美町の方の温かさに見守られオーストラリアへ行き、オーストラリアの方の温かさを知り、それを感じて稲美町に帰ってくる。これこそが国際交流なのではないでしょうか。最後に、私がお世話になったすべての人に、たった一言だけ「Thank you」と感謝の気持ちを込めて言いたいです。

一生の宝物

大橋 愛香

大きな大地に驚き、たくさんの動物、自然とふれあうことのできたファームステイ。オーストラリアで、普段の生活に混じり、たくさんのことを知り、たくさんの人と出会い、たくさんの言葉を覚えたホームステイ。日本の文化を紹介した学校訪問。私たちの海外派遣は、多くの人の支えで成り立っているのだとしみじみ思いました。

日本へ帰ると、私の育った町がまっています。私も、オーストラリアの人たちのように、自分の意見をしっかりと言えるようになりたいです。そして、「私が育ったこの町を大切にしたい」と思いました。この一週間で、私は少しだけ強くなれた気がします。本当にこの事業に参加できて良かったです。私にとって、海外派遣は忘れることのできない大切な思い出になりました。

まちづくり条例制定委員会は、7月30日から9月3日まで町内の5会場で住民座談会を開催し、まちづくりについての考え方や方向性について、住民の皆さんから貴重なご意見をいただきました。

それらのご意見をもとにして、条例文の草案作りにとりかかります。

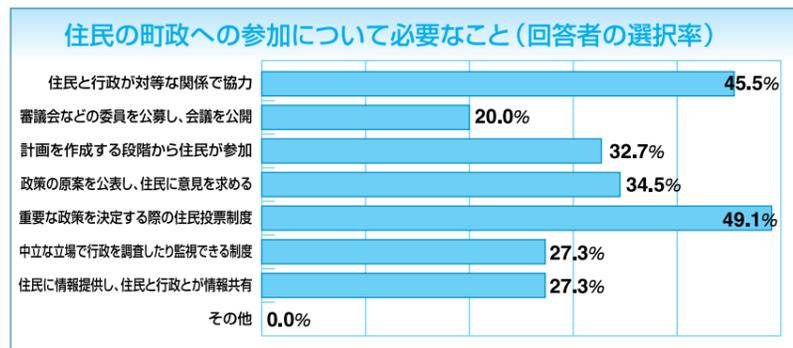
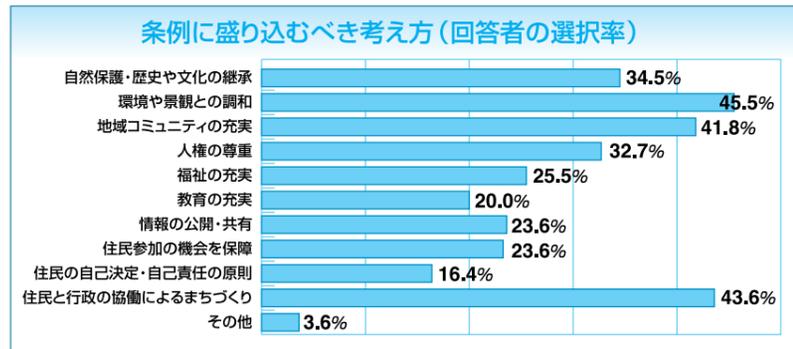
草案ができた時点で、住民意見の公募を行いますので、積極的なご意見をお寄せください。

住民座談会や住民意見の公募で寄せられたご意見

- ◇環境保護や自然景観の保全
- ◇産業の振興
- ◇地域コミュニティの維持
- ◇教育の振興・文化の継承
- ◇次世代の育成
- ◇行財政改革の実施
- ◇交通機関・道路の整備

◎ 住民座談会の会場では次のような質疑応答もありました。

Q 条例制定の意義は？
 A この条例は住民と行政のよりどころ



住民座談会などで出されたご意見をもとに、条例に盛り込む具体的な内容を検討し、条例文の草案作成の作業を開始します。

「(仮称)稲美町まちづくり基本条例」の制定に向けてその内容を検討していきます

みんなの憲法

◎ 住民座談会の会場では次のような質疑応答もありました。

今後開催される会議日程

10月13日(木) 19:00~

【コミュニティセンター】

- 条例草案の確定
- 住民座談会の検討
- 住民意見の公募方法などについて

11月1日(火) 19:00~

【コミュニティセンター】

- 条例解釈文の検討
- 住民座談会の検討などについて

- ※ 委員会の会議は公開とし、傍聴もできますので、希望される方は、当日に会場までお越しください。(ただし、20人を定員としますので、満席の場合はご容赦願います。)
- ※ 会議の開催日程や会議資料などは、ホームページでもご覧いただけます。

(<http://www.town.hyogo-inami.lg.jp>)

講演会や住民座談会で実施した「アンケート」の結果も抜粋して紹介します。

すべてに感動

杉本 衣里

オーストラリアでの8日間は、アツという間に過ぎ、多くの驚きや珍しさ、感動でいっぱいだった。

私たちのホストファミリーは、みんな明るく陽気で、いつも私たちのことを気遣ってくれた。マンにはいろいろな所に連れて行ってもらった。ダンスパーティー、キングスパーク、ショッピング、海にも行った。夕方、低い山に車で登り、夕日が沈むのを見た。とても感動し、今でも鮮明に覚えている。

ホストと別れるとき、家で涙が止まらなかった。私のホストはいつも私たち優先でしてくれて、言葉で少し困ったことはあったけど、一生懸命伝えようとするば伝わると感じた。また、私たち以上に言葉のことを考えて接してくれた。そういう気遣いがとても嬉しかった。

私にとってこの8日間はすごくいい思い出、勉強になった。いろいろな体験をさせていただいて本当に良かったと思った。



海外派遣を終えて

中学三年生

私がオーストラリア、海外派遣で学んだことは、英語の大げさ、聞こうとすること、話そうとすること、また、自分を知ってもらうこと、そして、お互いをわかり合うことです。

なかでも、お互いにわかり合うことでは、どんどん会話をすることが大切だと思いました。自分の家族のこと、ペットのこと、食べ物のこと、中学校のこと、スポーツなど。何でも自分のことを話していると、相手も相手自身のことを話してくれました。また、日本とオーストラリアの違いについても話しました。些細なことでも、とても喜ばれ、逆にオーストラリアの文化についても聞きました。

言葉は日本語と英語で違っていても、伝えたいという気持ちがあれば伝えることができました。今回の貴重な体験は私の宝物になりました。

すべての人に感謝

坂元 由梨

私のホストファミリーは、私が英語ができなくて困っていると、何度も説明してくれたり、ジェスチャーで伝えてくれようとしてくれました。何度も聞いてやっと私がわかったと伝えると、いつも笑顔で応えてくれました。私はそれが一番嬉しかったです。英語が苦手な私でも、ほんの少しだけでも意味がわかったのです。

私にとって、この8日間は本当に特別だったと思います。この次、またこんな機会があることを考え、英語を得意にしようと決心しました。

私は今、本当に嬉しいです。この海外派遣が始まるのがあと少し遅ければ、ホストファミリーの人たちにも会えなかったし、今のこの気持ちもありません。この事業にご協力して下さったすべての人に感謝しています。

オーストラリアで学んだこと

前田 亜美

パースにある兵庫文化交流センターでは、小川所長にたくさんのことを教えていただきました。例えば、オーストラリアと日本が互いに助け合っていることや、たくさんの方が日本語を勉強し、日本文化を理解しようとしていることです。また、お寿司やうどんなど、日本食の人気の高くなっています。だからこそ、私たち日本人も色々な国の文化を理解しなければいけないと感じました。

ガバナースターリング高校では、いろいろな授業を見学することが出来ましたが、特に感心したのはコンピュータを使った授業です。スワン市はとても広いので遠くまで学校に通えない子どもたちがいるようで、パソコン通信で対応しています。

今回の派遣事業では、飛行機に酔って辛い体験もしましたが、私のこれからの人生においてとてもプラスになった貴重な時間を過ごさせていただきました。